

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 10 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2173200193		
法人名	有限会社 ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-1 (電話) 058-327-4965		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年9月1日	評価確定日	平成19年10月24日

【情報提供票より】 (平成 19 年 6 月 1 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 9人, 非常勤 15 人, 常勤換算 7, 5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	3,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (1年以上)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 19 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 81.8 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	江崎歯科医院、広瀬内科クリニック、穂積すこやか診療所、ほづみ整形外科
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊吹山脈を遠くに望み、目にまぶしいほどの緑あふれる田園に囲まれた環境の中に2階建ての家屋が和の雰囲気で作られている。管理者は平成12年度からグループホームに携わっており、「グループホームが利用者の終いの住処であるように」という考え方の元で職員は利用者と共に生活を支え合えるような支援をしている。利用者同士が「おはよう！」と声を掛け合って起床したり、日々の生活の中でおのおのが役割を持つてのびのびと暮らしている。年に2回の日帰り旅行は家族も出席し、利用者は勿論のこと、家族にとっても大きな楽しみとなっている。定着率の良い職員はケアに対する情熱を持って利用者に接し、それはそのまま家族の安心感ともつながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の要改善点は特になし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者及び職員は評価項目を読み込んでおり、自己評価を通してより良いホームへの熱意が感じられた。さらなる向上を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政担当者・民生委員・家族・元利用者の家族OBも出席し、毎回参加する方も増えている。「喜楽ボランティア」という家族と地域を中心にした会が地域からの申し出ででき上がるなど、ホームの行事への協力体制が自然に作られている。ホーム内で会食の会を計画し、ホームと地域とのつながりを一層強くできるような取り組みを図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族は訪問回数も多く、来所時に利用者の状況を報告したり家族へ送るホーム便りには利用者のスナップ写真も添えている。家族の希望や意向の把握に努め、意見や苦情が言いやすい環境作りを図っている。また在宅介護支援相談所を設け、家族や地域からの保険・介護サービスに関する相談に総合的に応じられる仕組みも整えられており、家族の安心感を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	天候がよければ毎日散歩・外出・買い物をし、地域の公民館で行われているふれあいサロンにも利用者は参加している。近隣の保育園児が年に16回に分け少人数でホームに遊びに来て、利用者の楽しみにもなっている。ホームの夏祭りはチラシを新聞にはさみ、多くの方が参加し、住民も交えて楽しめる場所作りに努力している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「自由に安全に」という理念が明確になっており、利用者が理念そのままに普通に暮らしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入った見やすい場所に掲示し、代表者はミーティング時や会議等でも日常的に話しており、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、利用者は地域のふれあいサロンに行ったり、ホームの夏祭りには地元の方がボランティアに来るなど、自然な形で地域と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の自己評価を通し、よりよいホームへの熱意が感じられる。その結果は運営推進会議でも話し合わせ、少しでもサービスの質の向上へつながるよう前向きに取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行われる運営推進会議には自治会、民生委員、家族代表、元利用者の家族、行政など回を追う毎に参加者が増え、現在の取り組み・今後の課題など情報交換しながら意見をもらえるような内容に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から研修の依頼があったり、利用者の状況や空室状況を知らせるなど、常に連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事である夏祭りは家族会の自発的な意志による協力で行われている。また、家族は気軽に訪問をし、職員と顔なじみになっていて、意見が言いやすい関係が出来上がっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティングにも家族は必要時に出席し、相談や意見を述べる場を提供している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からユニット間の交流が多く、職員とは顔見知りになっている。また、異動は長いスパンの中で行き、利用者が混乱しないよう配慮している。管理者も日々、極力サポートし、職員が手薄な時には対応できるようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、必要な研修には勤務扱いで出席し、その内容はミーティング時に報告されている。また、その時その時の利用者の体調に合わせた重要課題は内部研修の形で行われ、家族の安心感を得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他ホームとも相互研修を行うなど、交流を通してホームの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームや職員に徐々に馴染んでもらえるよう、デイサービスの利用、ショートステイの利用、体験入居、と順を踏んで移り住んでいけるよう、無理のない工夫と支援をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できること、できないことを把握しながら、教えてもらったり、一緒に暮らす中で支えあって生きているという関係を全職員が大切に、ケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去の生活歴や家族へのきめ細かいアセスメントにより、思いや希望を聞き取っている。また、日々のケアの中で汲み取ったものはミーティングに職員間で共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時、また、家族にはミーティングにも参加してもらい、本人がその人らしく暮らせるよう、意向の確認を通して個性を活かした質の高い介護計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を見ながら、退院後、また変化時には家族への連絡と確認も行い、きちんとモニタリングしながら、介護計画を修正している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを活用し、在宅時の暮らしの延長線上にあるような自然な形を活かした対応と支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を重視し、通院は家族が行っているが、必要時には職員が同行する等、その時その時に応じて柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所当時から、終末期の大切さと重要さを課題とし、入居時に本人と家族に意向と希望を聞き、同意をもらっている。ホームには看護師もいることから、終末期の看取り経験もある。		加齢と共に日常生活動作の低下も今以上に増えることも予測されるので、終末期における職員対応のさらなる力量向上に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者は常に利用者の尊厳を大切にするケアを職員に伝えている。職員はそれに応え、一人ひとりの人生を師とし、尊厳を守り、かつ親しみのあるケアを日々実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間は生活のリズムを崩さない程度の範囲で自由に選択し、その日その時の本人の気持ちと希望を尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ本人の希望を聞き、食材の買出しも一緒に行なっている。また、準備も利用者が積極的に行い、職員もその様子を笑顔で楽しんでいる姿には普段の支えあいが感じられた。		家庭の如く、献立はその日の冷蔵庫の中身と、利用者の好みによって日々決めるなど暖かみと温もりが感じられた。栄養士による定期的なアドバイスに裏付けされた柔軟なその取り組みは、今後も継続されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きの入浴が基本であるが、汗をかいた方は毎日入ったり、シャワーを浴びている。また、入浴を拒む方には清拭で対応している。夜間入浴にも、人員配置に配慮しながら本人の希望を第一に考え対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者がそれぞれの役目を自然に認識しており、台所の手伝いやお茶出しを積極的にしている。2つのユニット間は自由に行き来ができ、その解放感は気晴らしにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を見ながら毎日散歩や外出、買出し、ドライブを行なっている。雨の日や暑い日は屋根のあるデッキで外の雰囲気を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけず、網戸だけになっており、田園の爽やかな風が気持ちよくリビングまで吹き渡っていた。その開放感は家族や第三者にも訪問しやすい雰囲気となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練に加え、利用者と職員による2ヶ月の1度の自主訓練も行なっている。また、避難場所の確認も家族にする等、緊急時に対する意識を常に持ち、検討を重ねている。		緊急時のライフラインの確保や飲料水・食料品の備蓄等も整備されたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、きざみ食やミキサー食など形態別に提供している。また、水分量や食事残量は個別表に記録されている。職員である栄養士が糖尿病の献立や栄養バランスを時々チェックしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の広い庭は転倒時にも危険がないよう芝生にし、デッキからは明るい光がさんさんと差し込んでいる。昭和の民家を思わせる作りはホッとする木造であり、匂い、色、空気、光がほどよく配慮され、壁には利用者手作りの手芸作品がお洒落に飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは各自で用意したり、ホームにある物を利用している方もある。居室は畳や洋室を選択でき、家族の写真や手芸品がタンスの上に置かれるなど、個性のある居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。